

事業の名称

## 教育の課題に対応する実践的取り組み

ーフレックススクールにおけるキャンパスエイド活動を考えるー

〔事業責任者〕

(自治体側)

茨城県教育庁高校教育課・課長 横島 義昭

(大学側)

茨城大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻・教授 守屋 英子

### 事業テーマ：地域の教育力向上

#### 連携先

茨城県教育庁高校教育課

茨城県立鹿島灘高校

茨城県立結城第二高校

茨城県立茎崎高校

動の監督・指導，アンケート実施等の

監督・指導，研究協議会開催など

茨城県立茎崎高校

校長 林 まち子

教頭 菅原佐知子

教諭 (カウンセリングコーディネーター)

菊地芳明

(役割) 他校キャンパスエイドの受け入れと活

動の監督・指導

#### プロジェクト参加者

茨城大学大学院

教育学研究科学校臨床心理専攻

教授 守屋 英子

(役割) プロジェクト全体の統括，連携先との

連絡調整，実施内容についてのキャン

パスエイド指導など

筑波大学大学院人間総合科学研究科

教授 庄司 一子

(役割) 筑波大学茎崎高校キャンパスエイドと

の合同協議会開催への協力

茨城県教育庁高校教育課改革推進室

室長 植木 邦夫

管理主事 柳橋 常喜

(役割) 高校側および外部講師との実施計画等

の連絡調整

茨城大学大学院

教育学研究科学校臨床心理専攻

教授 岸 良範

教授 正保 春彦

准教授 金丸 隆太

(役割) プロジェクト実施内容についてのキャン

パスエイド指導など

茨城県立鹿島灘高校

校長 澤畑 洋二

教頭 横田 宏之

教諭 (カウンセリングコーディネーター)

川上 正裕

茨城県立結城第二高校

校長 松本 正人

教頭 生駒 忠夫

教諭 (カウンセリングコーディネーター)

萩原 明子

(役割) 他校キャンパスエイドの受け入れと活

茨城大学大学院

教育学研究科学校臨床心理専攻

修士1年 相原 朋佳

修士1年 安齋佳菜恵

修士1年 狩野 慶

修士1年 菊池 直人

修士1年 小室 厚子

修士1年 佐藤たまゆ

修士1年 成澤 佑太

修士1年 平原 裕美

修士1年 福井 孝子

修士1年 光武 沙織

茨城大学

特別支援教育特別専攻科

1年 鈴木友歩子

教育学部教員養成課程家庭選修

4年 長谷川瑞希

教育学部養護教諭養成課程

4年 内山 佳苗

3年 小原 由子

(役割) 他校でのキャンパスエイド活動体験、筑波大学荳崎高校キャンパスエイドとの合同協議会参加、生徒へのアンケート実施とまとめ等を通してキャンパスエイド活動を考え、活動校での研究協議会、シンポジウムで発表する

## プロジェクトの実施概要

### ①プロジェクトの目的

茨城県内のフレックス高校（定時制・単位制・三部制）に入学する様々な困難を抱えた生徒達へのサポート体制を考える。

生徒達へのサポート体制の一環としてキャンパスエイド活動がどのように機能しているか、またキャンパスエイドがより良く活動し、機能するためにはどのようなことが必要かについて、キャンパスエイド、キャンパスエイドを指導する教員、キャンパスエイドを活用する高校側、それぞれで考え学ぶ。

### ②連携の方法及び活動計画

高校教育課を通じて県立フレックス高校でキャンパスエイド活動が行われている3校（鹿島灘高校、結城第二高校、荳崎高校）と連携して、通常の鹿島灘高校、結城第二高校でのキャンパスエイド活動に加えて以下の活動を行う。

①キャンパスエイドが自分の活動する高校以外のフレックス高校を訪問してエイド活動を行う機会を作る。②県内3つの高校で活動するキャンパ

スエイドがそれぞれの学校でのキャンパスエイド活動について協議する機会を作る。③フレックス高校の特徴やキャンパスエイド活動を生徒達がどのように受け止めているかについて、キャンパスエイドが中心になってアンケートを作成し、鹿島灘高校・結城第二高校で全校生徒にアンケート調査を実施する。④アンケート調査の分析結果も踏まえてキャンパスエイド活動について、キャンパスエイドと高校教員が協議する機会を持つ。⑤他県のフレックス高校について学ぶ機会を作り、総合的に生徒達へのサポート体制について考える。

これらの活動を行うに当たって、高校教育課は①～⑤の活動を行うことを県立鹿島灘高校、結城第二高校、荳崎高校に説明し協力を得、実施中も適宜日程調整等を行う。また、他県でのフレックス高校から参考となる活動をしている高校を選定し、講師紹聘の交渉をする。県立高校3校は、他校で活動するキャンパスエイドを受け入れ、自校でのキャンパスエイド活動に参加できるよう監督・指導する。県立鹿島灘高校・結城第二高校では、キャンパスエイドが作成したアンケート内容の事前指導を行い、各校でホームルームなどを利用してアンケートを実施する。また、キャンパスエイドとの協議会を開催し、教員とキャンパスエイドが意見交換をする機会を提供する。

大学側は今年度のキャンパスエイドを募集し、通常のキャンパスエイド活動に加えて上記①～⑤の活動を行うことを説明し、実施するにあたって、キャンパスエイドを指導する。

### ③期待される成果

大学側として期待できる成果は以下のような点である。①同じキャンパスエイド活動であっても、高校による違いを具体的に認識することができ、キャンパスエイド経験者が将来教員やスクールカウンセラーとして活動する際に、学校風土全体を考える、という姿勢が身につく。②他のキャンパスエイドの活動や活動に使う部屋の運営の仕方などを学ぶ機会となり、自身のキャンパスエイド活動や学校内の連携のあり方、今後の学級経営・相

談室経営への参考となる。③フレックス高校に在学する様々な困難を抱えた生徒達の実態や援助について考える機会となる。④キャンパスエイドを指導する大学教員として、キャンパスエイド活動をサポートするために留意すべき事項を確認する機会となる。

高校側に期待できる成果としては以下のような点が考えられる。①生徒達がフレックス高校の特徴をどのように捉えているか、キャンパスエイド活動が生徒達にどのように認識されているのかを知る機会となり、今後の生徒達へのサポート体制、キャンパスエイド活動の活用へと結びつく。②他校でのキャンパスエイド活動について知ること、自校の特徴を知り、今後のキャンパスエイド活動への新たな視点を得ることができる。③他県のフレックス高校での学びや心理面でのサポート体制を知ること、今後の生徒へのサポートへ活かしていくことができる。

## プロジェクトの実施成果

### ①活動実績

#### (1) キャンパスエイドの他校訪問

9月3日～10月23日の間に実施

各校へ1日訪問し、カウンセリングコーディネータの指導の下で、その高校のキャンパスエイドとともに活動し、体験したこと、考えた事をレポートする。

鹿島灘高校キャンパスエイド→結城第二高校：

5名参加

結城第二高校キャンパスエイド→鹿島灘高校：

9名参加

鹿島灘高校・結城第二高校キャンパスエイド→

荃崎高校：11名参加

#### (2) 筑波大学荃崎高校キャンパスエイドとの合同ミーティング

11月28日(木) 18時～20時

筑波大学総合研究棟 D115にて実施

参加者：

茨城大学より、教員4名、キャンパスエイド

10名

筑波大学より、教員3名、キャンパスエイド11名、その他院生6名

荃崎高校より、教員3名、スクールカウンセラー1名

内容：

①アイスブレイク

②各高校でのキャンパスエイド活動紹介

③各高校キャンパスエイドの混成グループでのグループ討議

④グループ発表、シェアリング

#### (3) 鹿島灘高校・結城第二高校の生徒達へのアンケート調査

11月～12月に実施

フレックス高校に関する質問

・高校を選んだ理由

・高校の良さ

・高校に希望すること

・高校が特色としていることへの評価

キャンパスエイドに関する質問

・周知度について

・利用のしにくさの理由

・空き時間に過ごす場所

・キャンパスエイドのイメージ

・エイドのいる部屋を利用したい時間帯

・エイドのいる部屋を利用したい理由

・エイドと話したいこと

鹿島灘高校：回答者数 160名(男子94名、女子63名、不明3名)

結城第二高校：回答者数 243名(男子102名、女子140名、不明1名)

#### (4) 高校でのキャンパスエイド協議会実施

鹿島灘高校：

12月18日(水) 9時30分～10時30分

鹿島灘高校会議室にて実施

参加者：キャンパスエイド6名、高校教員12名

結城第二高校：

12月13日(金)10時15分～11時30分

結城第二高校会議室にて実施

参加者：キャンパスエイド5名、高校教員13名

内容：キャンパスエイドより、それまでの活動からの体験報告とアンケート結果に関する報告。それを受けての高校教員との討議と大学教員からのコメント。(資料としてアンケート結果データを配布)

(5) シンポジウム「フレックスな学びと心のサポートーキャンパスエイドの実践からー」

平成26年2月22日(土)13:00～16:30

茨城大学教育学部 B205にて実施

参加者：茨城県教育庁高校教育課高校改革推進室3名、県立フレックス高校(鹿島灘高校・結城第二高校・荖崎高校・水戸南高校)27名、筑波大学キャンパスエイド6名、キャンパスエイド指導教員1名、茨城大学キャンパスエイド16名、キャンパスエイド指導教員4名、茨城大学教員3名、学部生2名

(以上62名)

内容：

講演：「千葉県における多部制定時制過程の現状と今後の方向性」

講師：千葉県立生浜高等学校校長 百瀬明宏先生  
キャンパスエイドによる発表：

- ・戦略的地域連携プロジェクト実施報告
- ・鹿島灘高校キャンパスエイド活動報告ー活動の現状と工夫ー
- ・結城第二高校キャンパスエイド活動報告ーエイド室に入室する生徒たちー
- ・2013年度キャンパスエイドアンケート結果ー各校の特徴と比較ー

総合討議

②プロジェクトの達成状況

キャンパスエイドが他校を訪問し、他校のキャンパスエイドおよびカウンセリングコーディネーターの先生とともに活動することで、フレックス

高校でも学校環境や生徒達の特徴は学校によって異なること、そのためにキャンパスエイド活動についても、活動の仕方に違いが生じていることが、キャンパスエイドにも、高校側担当者にも明らかになった。

3校のキャンパスエイドの合同ミーティングでは、キャンパスエイド達は同じエイドという立場で自由な意見交換ができ、また指導する立場である大学教員と受け入れ側高校教員の間でもエイドがよりよく活動するための意見交換ができた。各高校での活動の比較から、取り入れるとよい方法や、困難を感じることにその解決方法などが考えられた。

生徒達が学校生活やキャンパスエイド活動に対してどのような思いを抱いているのかがアンケート調査から明らかになった。「自分の生活スタイルに合わせて登校できる」「いろいろな授業を選べる」「授業がわかりやすい」「心理学の授業がある」「キャンパスエイドがいる」などのフレックス高校独自の取り組みが生徒たちにも歓迎されていることがアンケート結果からも読み取れた。キャンパスエイドに対しては、「落ち着く」「優しい」「親しみを感じる」などの回答があり、「距離を感じる」という回答は少なかった。悩み事や嫌なことがあったとき、話を聞いて欲しいときにエイド室へ行きたいと言う回答が多く、進路や勉強、友人について話したいという回答が多かった。年齢が近いキャンパスエイドの存在意義が確認される結果であった。一方でキャンパスエイドやエイドのいる場所についての周知には課題があることも明らかになった。鹿島灘高校と結城第二高校の違い、またそれぞれの高校での学年間の特徴も認識できる結果であった。

千葉県の多部制定時制高校の現状については、フレックス高校へ入学してくる生徒たちの持つ多様な問題が話され、それに対応するための工夫などが具体的に示された。同様の状況が茨城県でも生じていること、同じような困難を抱える中で、生徒たちの学習面をサポートしたり、対人関係上の問題を解決し育てるための工夫を再確認し

たり、新たな示唆を得ることができた。

またキャンパスエイドたちも今回のプロジェクトでの取り組みから、自分自身の生徒への対応の仕方や、学校内での活動の仕方、フレックス高校の生徒たちの理解など様々な点で学び、成長することができていた。

### ③今後の計画と課題

キャンパスエイド活動はフレックス高校の生徒たちが学校生活を続けていく上での援助活動の一つとして意味があることが明らかであり、今後も継続して行っていく必要がある。大学側としてはキャンパスエイド活動を行う学部生・院生の確保が必要である。そのためには、学生へのキャンパスエイド活動の広報が必要である。

また、自治体側も継続的な事業として、キャンパスエイドの旅費相当分の予算の確保などを続け

ていく必要がある。キャンパスエイド活動を円滑に進めるには、各校でのカウンセリングコーディネーターの役割が大きいことがわかり、今後もコーディネーターが機能できるよう高校内での調整が望まれる。

キャンパスエイドは毎年メンバーが替わるため、今回得たものをどう次年度のキャンパスエイドに伝え、継続して積み重ね、より良いものとしていくかが課題である。特に他校への訪問と合同ミーティングはキャンパスエイド、指導教員、高校側ともに得るものが大きかったが、エイド達の時間や旅費負担などが今後継続する上で課題である。

また、今回得られた様々な知見をどう今後の実践活動へと活かしていくかを今後考える必要があろう。

### 筑波大学荃崎高校キャンパスエイドとの合同ミーティング



各校での活動をパワーポイントで紹介



グループディスカッション後のシェアリング風景

### シンポジウム「フレックスな学びと心のサポート」



千葉県立生浜高等学校長 百瀬明宏先生御講演



キャンパスエイドによる活動報告